

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会

医療法人社団 東京石心会

医療法人社団 新東京石心会

社会福祉法人 石心福祉会

<http://www.sekishinkai.or.jp>

海燕

うみ

つばめ

2017年11月15日

石心会 BULLETIN 号外

発行人：石井暎禧

編集人：辻田征男

発行：石心会法人事務局

〒212-0014 川崎市幸区大宮町 23 番地 5

コーラルビル

TEL 044-511-2266 (代) FAX 044-540-1135

号外

(新)埼玉石心会病院

10月14、15日 完成記念式典・内覧会

11月1日 開院 旧病院からの患者移送



埼玉石心会病院の完成記念式典は、10月14日、15日の両日、一般の皆さんと医療関係者に分けて記念式典・内覧会が開催されました。悪天候にもかかわらず合計1,979名（14日1,271名、15日708名）の来客を迎え、盛大に行われました。神奈川県からも多くの職員がスタッフとして駆け付け、会の運営を担当して、式典・内覧会の成功に貢献してくれました。

11月1日は新病院の開院日であると同時に、一番大切な入院患者さんの移送日でもあり、最も緊張した一日でした。

さいわい好天にも恵まれ、232名の入院患者さん

志田晴彦 埼玉石心会病院院長

職員の皆さんご苦労様でした。



患者さんの移送前。指示を行う志田院長。スタートからメディア各社の取材が入りました。



重症患者さんは救急車で移送



次々に到着する患者さんの移送車

を無事移送できました。また救急車の受け入れは、ひと時もストップすることなく、新病院で朝8時の開院直後から翌朝8時まで、救急車18名、walk-in 55名の患者さんを受け入れ、そのうち16名が即入院となりました。献身的な働きを発揮した職員の皆さんに改めて感謝いたします。

新病院の課題は、今後に残りますが、この成功をバネとして素晴らしい病院づくりにみんなで邁進してほしいと思います。

看護師の充実を図り 新・埼玉石心会病院の早期全棟開棟を！

佐藤 久美子

社会医療法人財団石心会 法人看護人事部長

10月2日付で私は法人看護人事部長という役職を拝命しました。（川崎幸病院看護部長〔副院長〕及びさいわい鶴見病院看護部長は兼務）

法人における新しい役職での私のミッションは、何といっても神奈川から埼玉石心会病院に看護師を派遣するという事業を成功に導き、新病院ができるだけ早く病棟をフルオープンできるよう、埼玉石心会病院看護部と協力して看護人員を充実させることにあります。

新病院の開院記念式典には私も出席しましたが、冷雨の中にもかかわらず大勢の市民の方が参加され、地域の期待の大きさを肌で感じることができました。埼玉石心会病院の新病院移転の一つの目的がベッド不足の解消であるならば、引っ越しを終えたら本来なら間髪を入れずに病棟をフルオープンさせねばなりません。まして看護師の不足でそれを遅らせてはならないと強く思いました。

埼玉県は人口当たりの看護師数が全国一少ない県です。そのためこれまでも埼玉石心会病院では7：1看護を維持するために、看護部では大変な苦勞をされてきたと聞いております。

そこへ新病院では101床の増床です。街の人たちの新病院への期待は大なるものがあるでしょうが、地元採用のみでは適時に必要な看護師数を採用するには限界があることは理解できます。

そこで、『海燕』の前号（78号）に理事長が書いておられたように、石心会法人本部では、神奈川から看護師を派遣することを決定し、その流れで私が新しい役職を拝命したものです。

それでは、神奈川県は看護師が余っているかというところではなく、

全国都道府県の内埼玉県に次ぐ下から2番目の看護師不足県で、人口当たりの看護師数は両県ともほとんど変わりません。

このような状況下で、川崎幸病院では、来年度の看護師新規入職者が定員に達したため、今年8月末時点で早々と募集を打ち切りました（現在は埼玉派遣のために再開しています）。

川崎幸病院における看護師の需給関係が、質的に改善されたのは新病院移転後のこの5年間であり、それは急速な改善でした。

その理由については、看護部としての努力はもちろんしましたが、①川崎幸病院は2012年の新築移転後5年間で救急医療や大動脈治療等が世間で評価され急速に有名病院（ブランド病院）になったこと、②移転後の川崎幸病院はターミナル駅から近く、抜群のロケーションであることによるものが大きいと私は思います。

こうしてみると、埼玉石心会病院も移転前に比べればアクセスはとて改善され、病院の設備は川崎幸病院のレベルをはるかにしのぐ（私は小型スポーツカーと大型高級外車の差と言っています）わけですから、ぜひ数年かけて病院をブランド病院にして看護師に困らない病院にして頂きたいと思っています。

現在の具体的な派遣計画及び全棟開棟のロードマップは下記のとおりです。

☆第1弾 平成29年11月16日付け 5名 派遣

☆第2弾 平成30年4月1日 新規採用者含め30名



派遣

☆第3弾 平成30年度内 追加15名以上
総勢50名以上。各自1～2年間川崎幸病院とのローテーション人事として派遣。

上記に加え、平成30年中に埼玉石心会病院看護部

で独自に確保のめどがついている看護師を加えると、開院1周年の来年11月には全棟開棟に必要な510名に達し、無理なく450床全棟開棟ができると考えています。

カマチグループ

江東リハビリテーション病院が開院

カマチグループの22番目の病院として、10月に開院予定の江東リハビリテーション病院（梅北信孝院長）の開院式が9月9日に行われました。

江東区東部医療圏は10万人あたりの回復期リハビリテーション病床が12.5床で、全国平均の20%しかありません。この地に地上7階、206床の病院が作られるということで、開院式の当日は地元の人々を交えて盛況のうちに開院式が開催されました。

挨拶に立った蒲池真澄会長は、



蒲池会長

「私たちは急性期の医療を基本としながらも、回復期のリハビリテーション施設の不足を痛感し、回復期リハビリテーションを実施する病院を各地に開設。今や全国に14のリハビリテーション病院を作り、日本一の病床を持つに至っています。近年では都心部の病床不足を補うために力を注いでいます。本院の開設もその一環です」などと話しま



した。

続いて、鶴崎直邦・巨樹の会代表理事、梅北信孝院長が挨拶に立ちました。梅北院長は東京都立墨東病院の院長を勤めた経歴を持ち、地元の医療事情を熟知しています。この地域で急性期病院から在宅療養に至る途切れのない医療サービスの一環を担うことを目指しています。

開院は10月に予定しています。

江東リハビリテーション病院

〒136-0073 東京都江東区北砂 2-15-15

基本理念

手には技術 頭には知識 患者様には愛を

基本方針

- 1 安心・安全な医療
- 2 チーム医療
- 3 地域医療

診療科目

内科・外科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科・救急科（予定）

病院概要

許可病床 206（最大 282 床まで増床を予定）
敷地面積 3,157.76㎡
建築面積 2,229.27㎡
建築延べ床面積 13,339.60㎡
病院建物 地上7階